

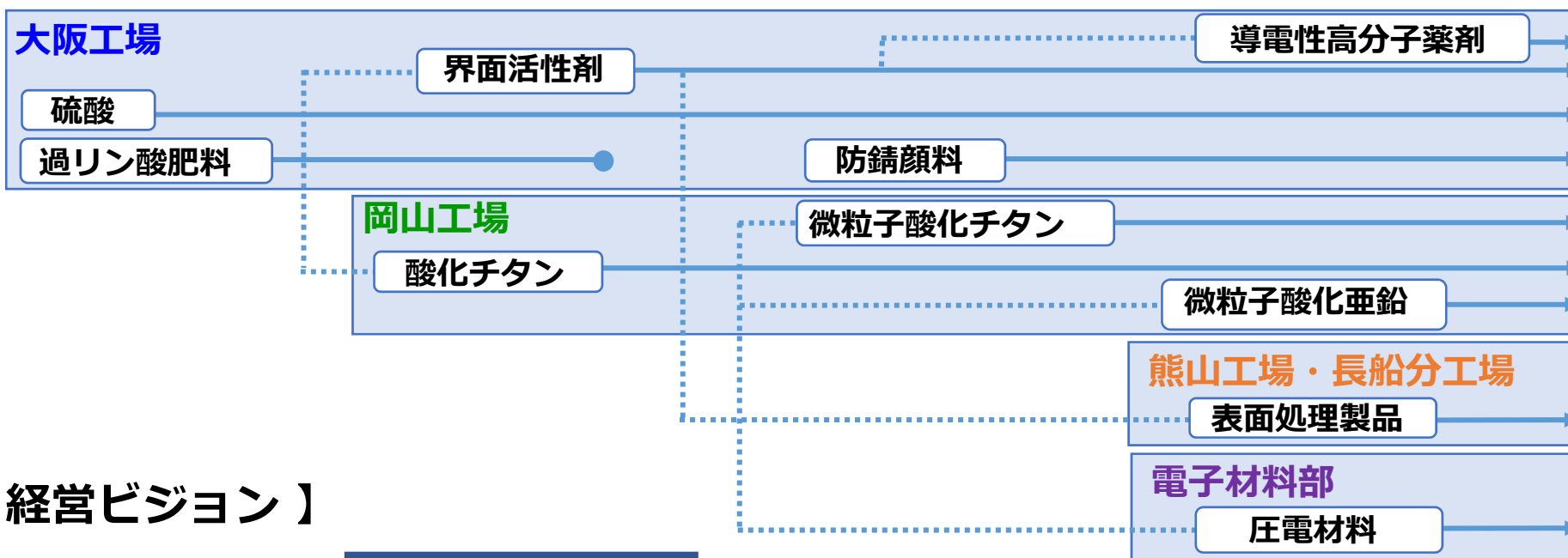
2025年3月期 決算説明会

テイカ株式会社
2025年6月12日
東京プライム（証券コード：4027）

本資料における業績予想および将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご了承おきください。

- 1． 会社概要
- 2． 2025年3月期 決算概要
- 3． 2026年3月期 通期業績予想
- 4． 経営ビジョン
- 5． 株主還元
- 6． 付属資料

会社概要：100年を超える製品開発の歩み



【経営ビジョン】

高収益体制の骨太の「強いテイカ」に成長

- ①基盤事業の安定化
- ②成長事業の強化
- ③次世代事業の育成

Challenge100
(2010-2019年度)

MOVING-10
(2020-2029年度)

2. 2025年3月期 決算概要

車載用コンデンサ向け導電性高分子薬剤の販売が伸長したこと等により、
売上高および利益ともに増加

2025年3月期 連結経営成績

(百万円)

	2024年3月期 決算実績	2025年3月期 決算実績	前期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	52,993	55,737	2,744	+ 5.2
営業利益	2,325	3,525	1,200	+ 51.6
経常利益	2,802	3,747	946	+ 33.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,866	2,422	555	+ 29.8

セグメント別の売上高・営業利益



(百万円)

	2024年3月期 決算実績		2025年3月期 決算実績		前期比 (%)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
機能性材料事業	28,074	562	28,495	1,461	+ 1.5	+159.7
電子材料・化成品事業	23,663	1,461	26,123	1,784	+ 10.4	+ 22.1
小 計	51,738	2,024	54,618	3,246	+ 5.5	+ 60.4
その他	1,255	300	1,118	279	- 10.9	- 7.2
合 計	52,993	2,325	55,737	3,525	+ 5.2	+ 51.6

機能性材料事業

汎用用途の酸化チタン	海外メーカーとの競争が激化するも、販売価格改定の効果等により増益
機 能 性 微 粒 子 製 品	微粒子酸化チタンは好調に推移、その他製品の顧客在庫調整があり減益

電子材料・化成品事業

導 電 性 高 分 子 薬 剤	車載用及びAIサーバー用途向けが好調に推移し増益
圧 電 材 料	海外連結子会社も含めて好調に推移し増益
界 面 活 性 剤	海外連結子会社も含めて日用品洗剤用途が好調に推移し増益

その他

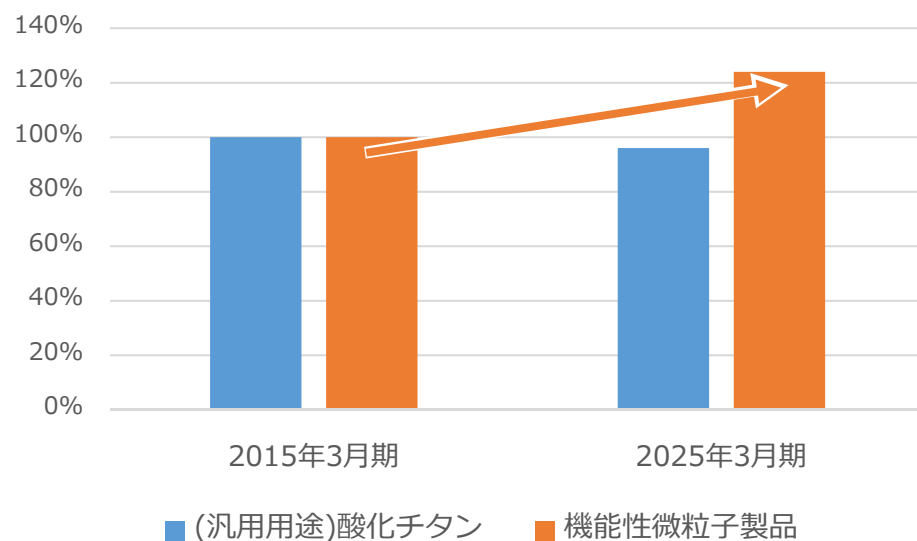
倉 庫 業	主要顧客の在庫調整があり減益
-------	----------------

機能性材料事業および電子材料・化成品事業の 製品群別の販売数量推移



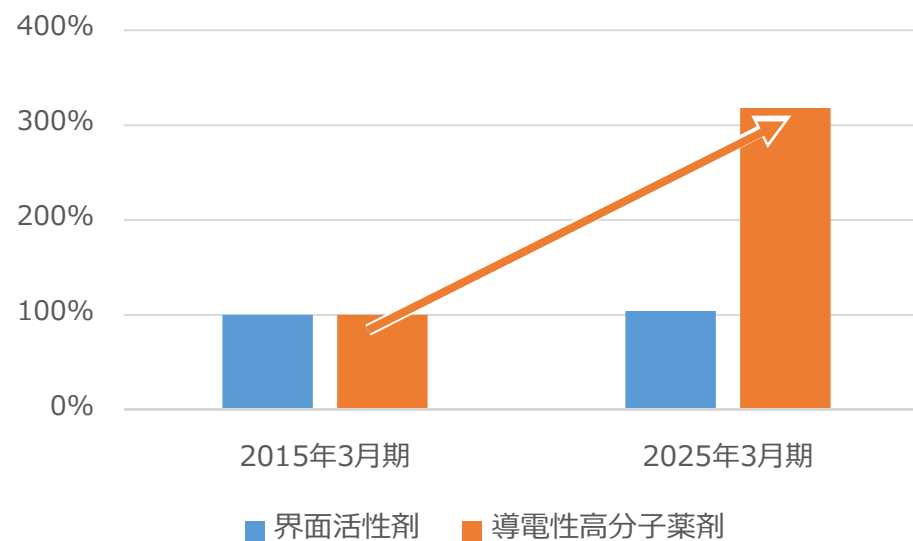
10年前(2015年3月期)と2025年3月期における、各セグメント内の代表的な製品群の販売数量の推移を示したグラフを以下に示す。
(数値は2015年3月期の販売数量を100%とした場合の販売数量の対比で示す。)

機能性材料事業



機能性微粒子製品：
微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品の合計販売数量

電子材料・化成品事業



3. 2026年3月期通期 業績予想

2026年3月期 業績予想

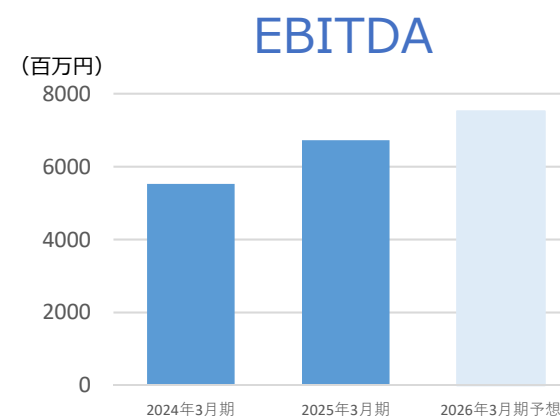
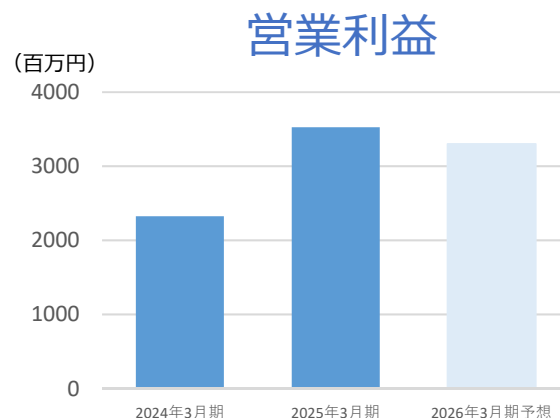
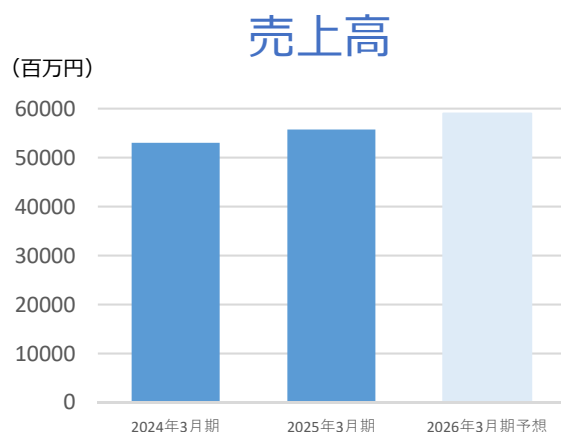


2026年3月期 連結業績予想

(百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	前期比 (%)
売上高	55,737	59,000	+ 5.9
営業利益	3,525	3,300	- 6.4
経常利益	3,747	3,600	- 3.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,422	2,400	- 0.9
EBITDA	6,725	7,520	+ 11.8

米国の関税政策による業績への影響は、現時点で合理的な算定が困難であり、反映しておりません。



2026年3月期 セグメント別業績予想 (売上高、営業利益、EBITDA)



(百万円)

	2025年3月期実績			2026年3月期予想		
	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA
機能性材料事業	28,495	1,461	3,434	30,430	570	3,650
電子材料・化成品事業	26,123	1,784	2,912	27,420	2,510	3,590
小 計	54,618	3,246	6,346	57,850	3,080	7,240
その他	1,118	279	378	1,150	220	280
合 計	55,737	3,525	6,725	59,000	3,300	7,520

機能性材料事業 業績予想

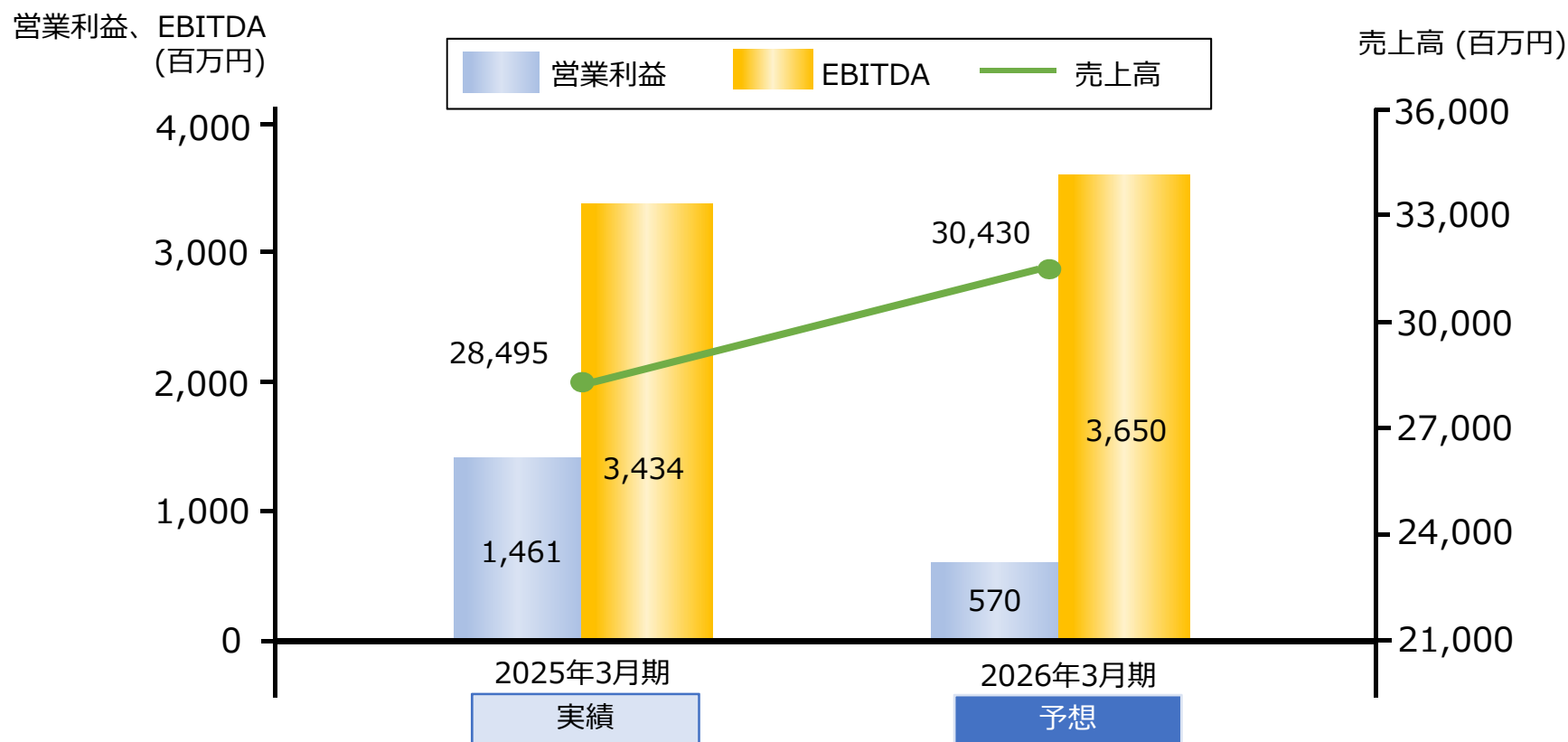


機能性材料事業

汎用用途の酸化チタン 海外品流入、需要低迷、原燃料価格の高止まり等により収益面で厳しい状況

機能性微粒子製品 欧州・アジア地域での販売維持・拡大が必須

(機能性微粒子製品：微粒子酸化チタン・微粒子酸化亜鉛・表面处理製品)



電子材料・化成品事業 業績予想



電子材料・化成品事業

導電性高分子薬剤

車載用及びAIサーバー用途向けの販売が好調に推移

圧電材料

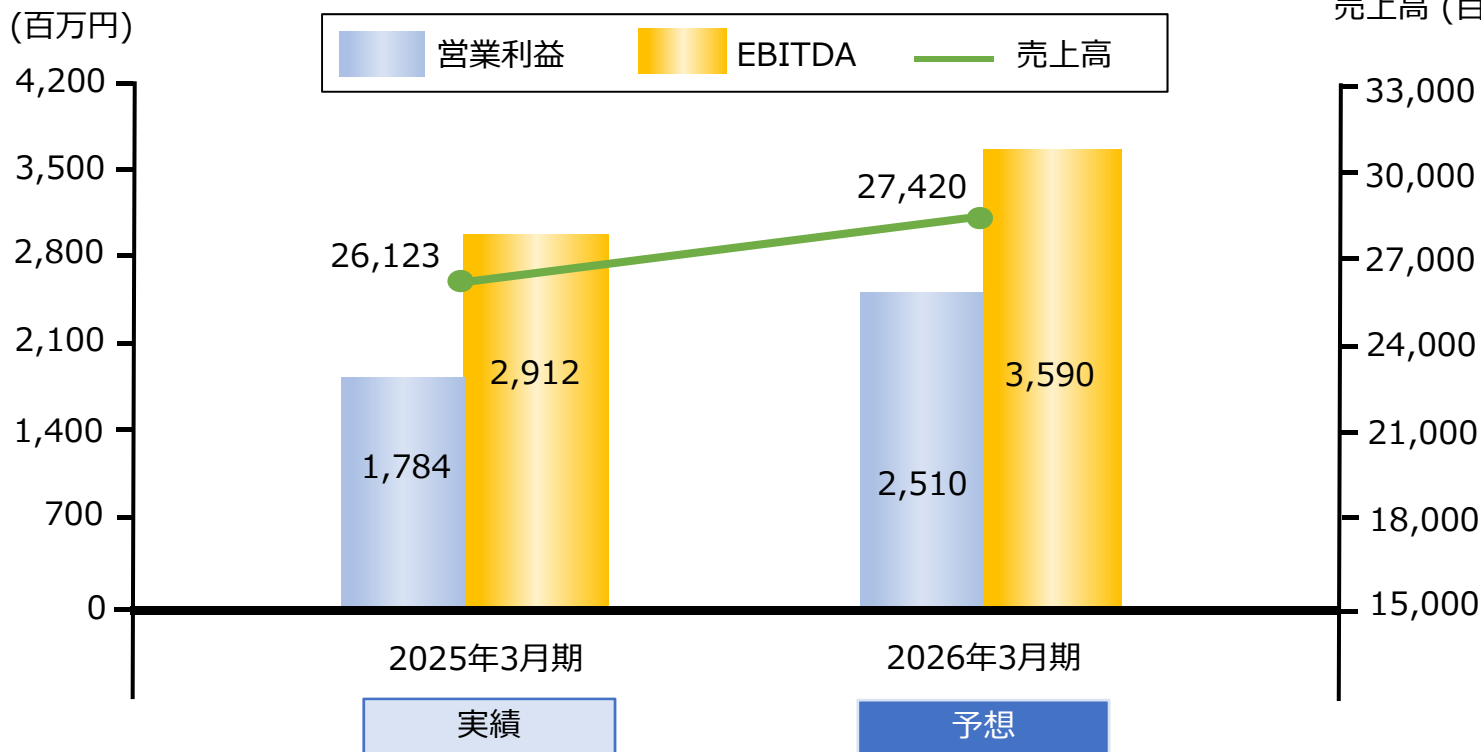
堅調に推移するものの、日・米両製造拠点からシェア拡大が必要

界面活性剤

日用品洗剤用途が好調に推移

営業利益、EBITDA
(百万円)

売上高 (百万円)



4. 経営ビジョン

経営理念

**テイカグループは、
化学の力で感動の素を創り、
世界に夢と笑顔を届けます。**

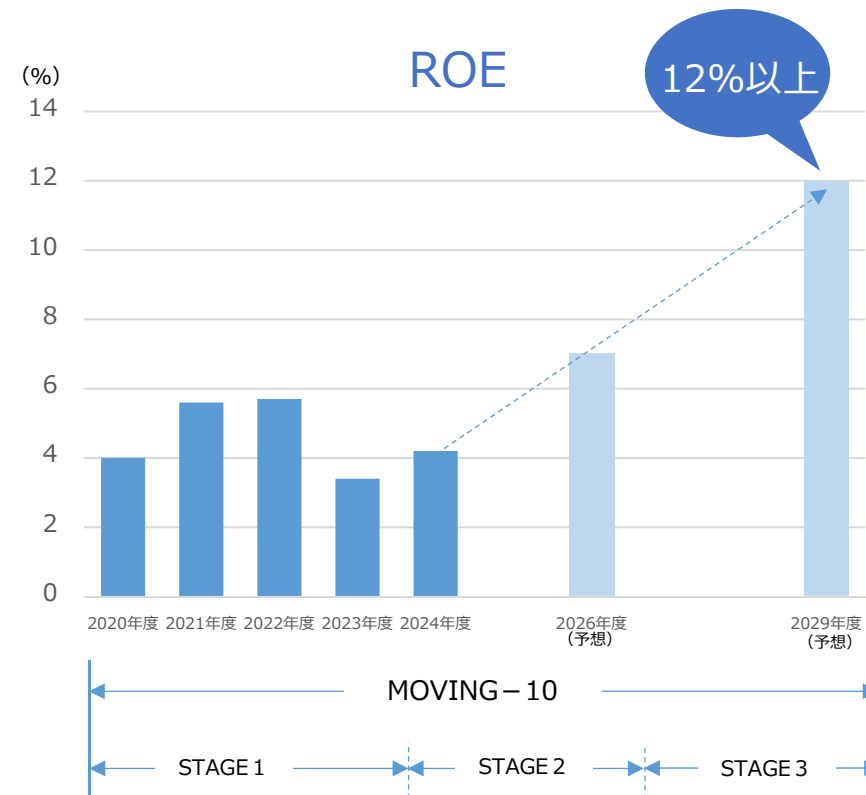
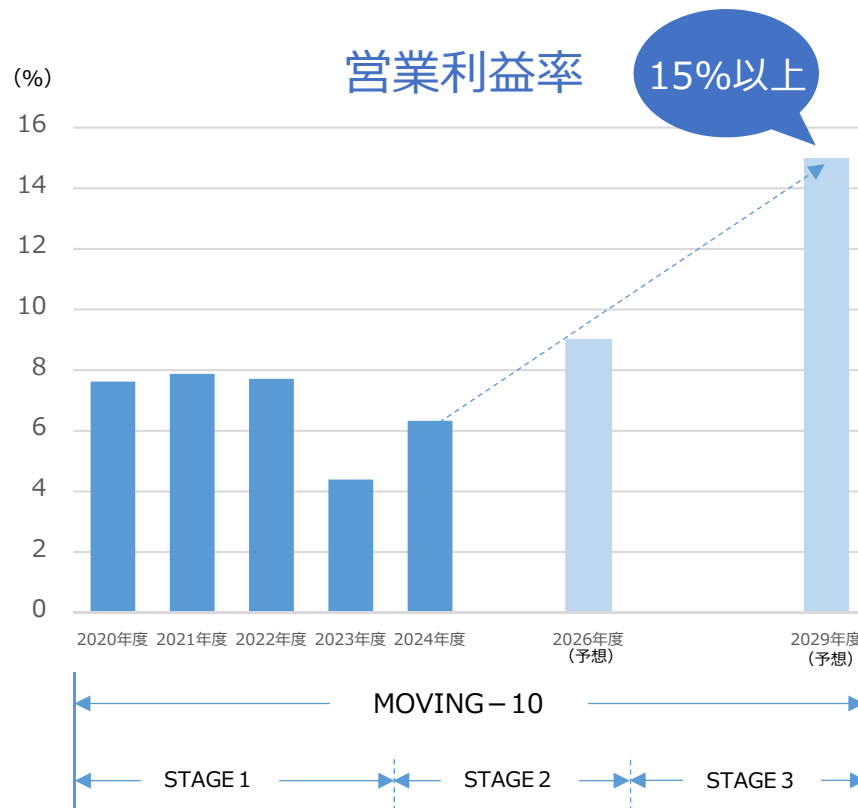
コーポレートスローガン

まじめに感動素材

長期経営ビジョン「MOVING-10」 (2020-2029年度)



汎用品から機能品へポートフォリオシフトを加速



ESG・SDGs

ESGの3つを最重要課題として積極的に取り組む
SDGsで提唱されている課題解決に貢献

研究開発方針

事業環境変化を捉える技術開発、事業基盤強化を図る
技術要素の進化をスピード感を持って進める

中期経営計画 MOVING-10 STAGE2 (2024-2026年度)



(2030年3月末)

長期経営ビジョン「MOVING-10」

2020～
2023年度

2024～
2026年度

2027～
2029年度

中期経営計画
MOVING-10 STAGE2

中期経営計画 目標経営指標、財務・資本政策



目標経営指標

	STAGE 1	STAGE 2	
	2023年度 実績	2026年度	
		目標経営指標(連結)	2023年度比
売上高	530億円	680億円	+150億円
営業利益	23億円	60億円	+37億円
営業利益率	4%	9%	+5%
ROE	3%	7%	+4%
EBITDA	55億円	105億円	+50億円

財務・資本政策

STAGE 2	
総投資額 (うち成長投資)	220億円 (115億円)
総還元性向	40%以上

- ・ 機能性材料事業
主に汎用用途の酸化チタン、機能性微粒子製品
(機能性微粒子製品：微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品)
- ・ 電子材料・化成品事業
主に界面活性剤、圧電材料、導電性高分子薬剤

汎用品から機能品へポートフォリオシフト

成長事業

機能性微粒子製品
圧電材料

グローバルニッチトップ
企業100選 選定製品

新規事業

導電性高分子薬剤
研究開発品「高屈折率チタニアゾル」

基盤事業

汎用用途の酸化チタン
界面活性剤

積極投資と増強

プロセス改善と
生産性向上

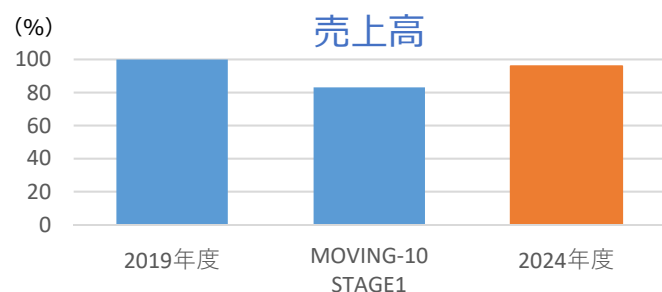
機能性材料事業：機能性微粒子製品

(機能性微粒子製品：微粒子酸化チタン・微粒子酸化亜鉛・表面处理製品)

グローバルニッチトップ
企業100選 選定製品

■売上高推移 (単位：%)

- ①MOVING-10スタートの前年(2019年)の売上高を100%とした場合の対比グラフ
- ②「MOVING-10 STAGE 1」のグラフは2020年度から2023年度までの平均値



(グローバル)市場分析

- ・化粧品の成長率は年率5%以上(当社調べ)
- ・皮膚への刺激が少ない、環境負荷のない原料需要拡大

顧客ニーズ

- ・高い紫外線遮蔽力、透明性、感触性および経時安定性
- ・安定した供給能力

当社の強み

- ・トップメーカーとしての高い技術
- ・資本力、供給能力

市場拡大に応じたさらなるシェア拡大

2025年、機能性微粒子製品の 新たな製造工場が完成予定

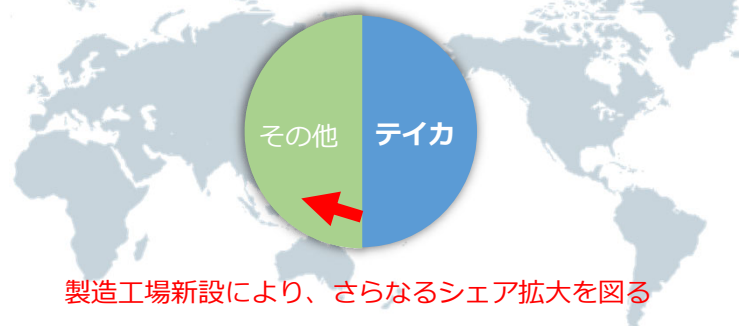
- ・需要拡大に対応すべく、製造設備の新設
- ・国際的な製造品質管理基準「原薬GMP」対応設備

【機能性微粒子製品製造設備の概要】

- (1) 生産品目：機能性微粒子製品
- (2) 生産能力：1,000トン/年
- (3) 新設設備所在地：
岡山県赤磐市小瀬木50番地22
- (4) 設備投資額：約50億円の予定
- (6) 設備新設による売上高増の見通し：
2030年度で約50億円の売り上げ増を目指す。

微粒子製品の世界市場シェア※

※日焼け止め化粧品用途の世界市場シェア、当社調べ



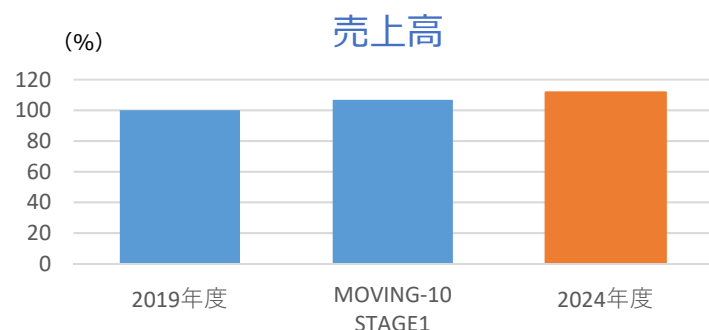
製造工場新設により、さらなるシェア拡大を図る

電子材料・化成品事業：圧電材料

グローバルニッチトップ
企業100選 選定製品

■売上高推移（単位：％）

①MOVING-10スタートの前年(2019年)の売上高実績を100%とした場合の対比グラフ
②「MOVING-10 STAGE 1」のグラフは2020年度から2023年度までの平均値



(グローバル)市場分析

- ・ 非侵襲的な診断の需要の増加およびAIとの融合増加に伴い医療用超音波診断機の需要拡大

顧客ニーズ

- ・ 高解像度画像の出力
- ・ 加工性に優れたコンポジット材料

当社の強み

- ・ 原料合成、結晶育成、加工まで一貫して製造が可能
- ・ 日米一体運営による開発/製造/販売体制

2026年度には、世界シェア50%を目指す

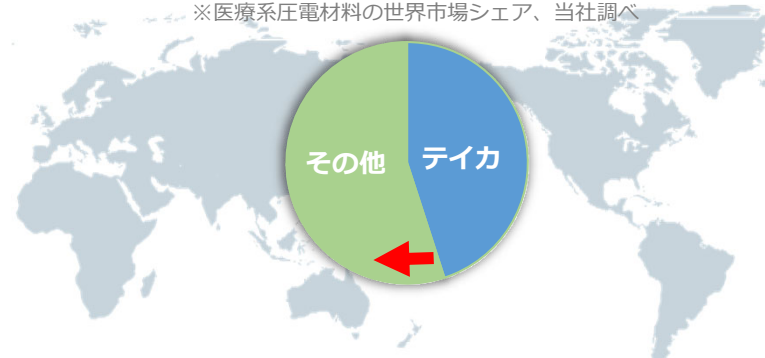
日・米一体運営による 開発/製造/販売体制の確立

- ・ 2018年 米国の圧電単結晶メーカーであるTRSテクノロジーを買収(約30億円)
- ・ 2022年 大阪工場に圧電単結晶材料 量産工場を新設(約15億円)

日・米両国の技術者のシナジー効果により開発された、新世代の圧電材料の拡販も進める。

圧電材料の世界市場シェア※

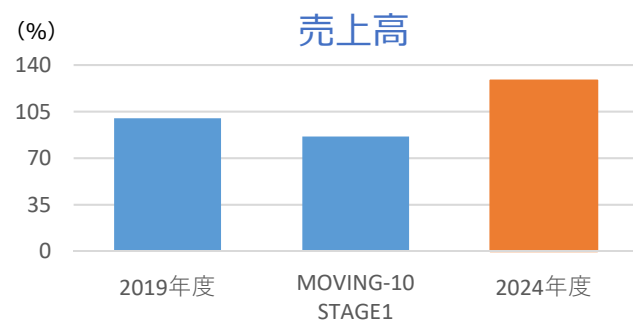
※医療系圧電材料の世界市場シェア、当社調べ



【さらなる差別化により、圧倒的シェア獲得を目指す】

■売上高推移（単位：％）

- ①MOVING-10スタートの前年(2019年)の売上高を100%とした場合の対比グラフ
- ②「MOVING-10 STAGE 1」のグラフは2020年度から2023年度までの平均値



(グローバル)市場分析

- ・自動運転やEV化等によって、自動車に搭載される高機能コンデンサの使用が増大

顧客ニーズ

- ・信頼性、耐(電)圧性、等価直列抵抗(ESR)特性の改善

当社の強み

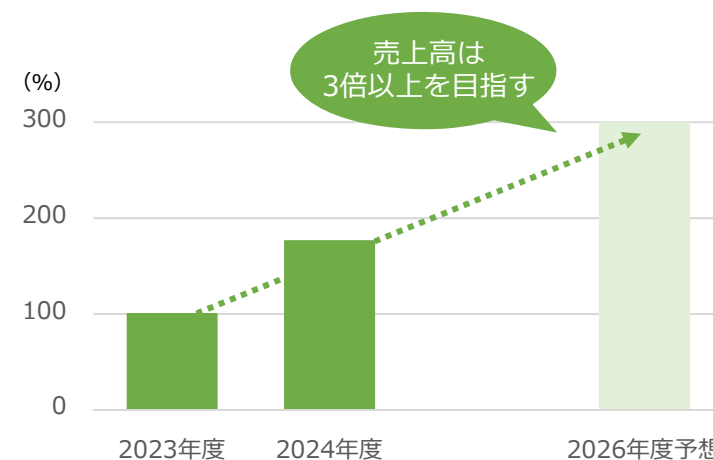
- ・ドーパント、モノマー、分散体など多くの薬剤を扱う
- ・顧客に代わり、最終的なコンデンサでの評価可能

・自動車用途のコンデンサで採用決定
・高機能性製品に特化のもと、設備投資も行い、さらなるシェア拡大を図る

2026年、導電性高分子薬剤の生産能力の増強が完了予定

【導電性高分子薬剤の生産能力増強の概要】

- (1) 生産品目：導電性高分子薬剤
- (2) 増強後の生産能力：2023年度の約3倍の生産能力
- (3) 新設設備所在地：大阪府大阪市大正区船町1丁目3番47号
- (4) 完成時期：2026年度



販売数量の推移

(数値は2023年度販売数量を100%とした場合の対比)

高透明性無機材料：高屈折率チタニアゾル



【(車載用)ディスプレイの光学部材】

(グローバル)市場分析

- ・視野の角度によって見えにくい
- ・日中、夜間の違いで見えにくくなる
- ・映像関連の用途が多様化
- ・経時での劣化をできるだけ抑えたい

顧客ニーズ

- ・高透明性、高耐久性、易配合性を兼ね備えた高屈折率チタニアゾル
- ・高濃度で配合したい
- ・安定供給

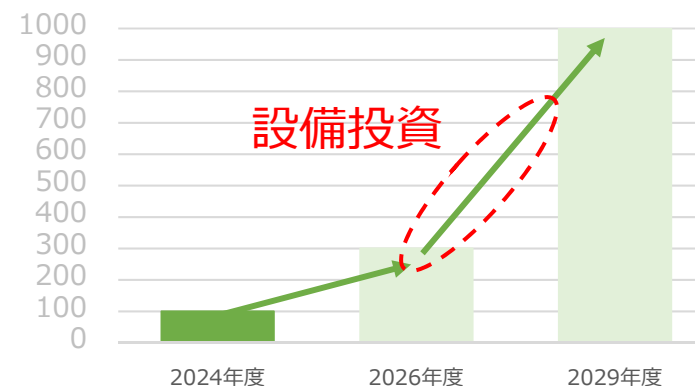
当社の強み

- ・長年開発を続けて培った技術により、高透明性、高耐久性、易配合性において、顧客の要求を超えるレベルの製品を開発
- ・分散安定化処理を行ったことにより、高濃度での配合が可能
- ・光取り出し効率の高い硬化物、成形物の作成が可能
- ・水、有機溶媒、モノマーなど様々な媒体での提供が可能

・ 新たに車載用ディスプレイでの採用決定
・ ARやVR用デバイスでの用途拡大を目指す

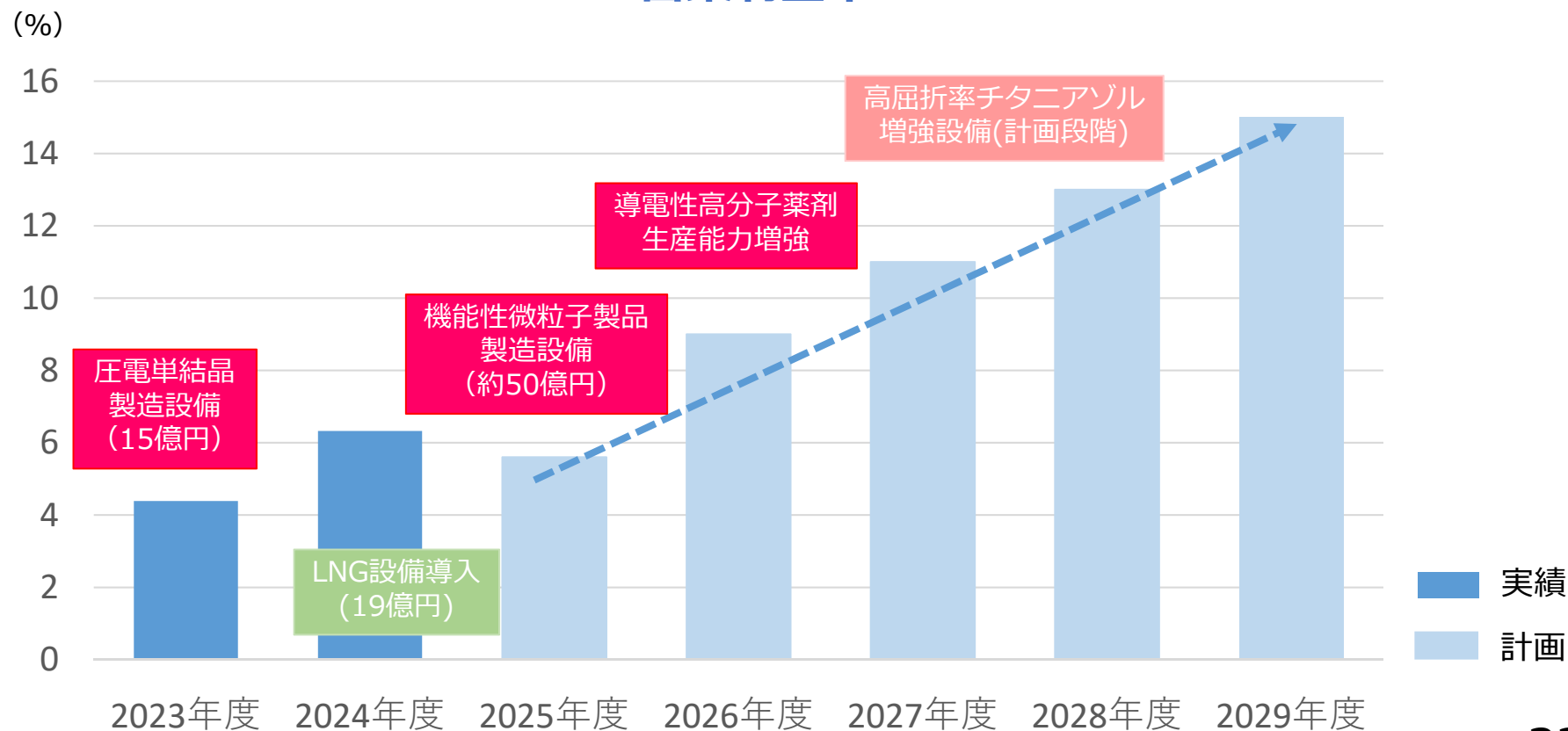
積極的に設備投資を行い、 次なる事業の柱へ

- ・ 今回の採用により、今後ますます発展が見込まれているAR(拡張現実)やVR(仮想現実)用デバイスでの採用拡大につなげる。
- ・ 2026年度には2024年度実績の3倍、2029年度末には10倍を目指す。



収益性の高い事業へ積極的に設備投資を行うことにより、
利益率の改善を図るとともに、次の柱となるべく事業も生み出す。

営業利益率



機能性材料事業：（汎用用途）酸化チタン 電子材料・化成品事業：界面活性剤



（汎用用途）酸化チタン

コスト削減と運営体制再構築

- ◆ 大胆なコスト削減策の検討と実行
- ◆ 市場環境に応じた販売推進と在庫管理の徹底
- ◆ 2030年CO₂半減に向けたロードマップ完遂

効率化と環境対応

- ◆ 生産の効率化によるコスト削減
- ◆ 燃料転換と熱回収によるCO₂削減

界面活性剤

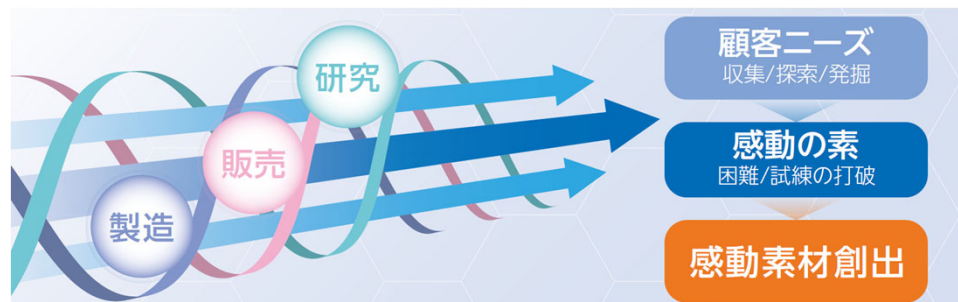
コスト削減と運営体制再構築

- ◆ 顧客基盤の維持拡大と海外展開による収益性向上
- ◆ 効率化/コスト削減の遂行
- ◆ 3拠点（日本・タイ・ベトナム）一体運営における安定した事業体制の確立

新規事業の育成と事業化



「まじめに感動素材」



目標 (KPI)

STAGE2最終年度（2026年度）の
新規事業の売上高目標額

売上高 10億円

研究開発成果その1

国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)が主催する化粧品学術大会
「IFSCC Congress」において、2年連続 トップ10を受賞し、
素材メーカーとして快挙を達成した。

2024年10月 ブラジル イグアス大会

(発表タイトル)

高度な分散技術を用いた多機能な新規SPFブースト材料：
優れた紫外線防御効果をもつミネラルサンスクリーンを
実現する、酸化チタンを均一に内包した球状シリカ



2023年9月 スペイン バルセロナ大会

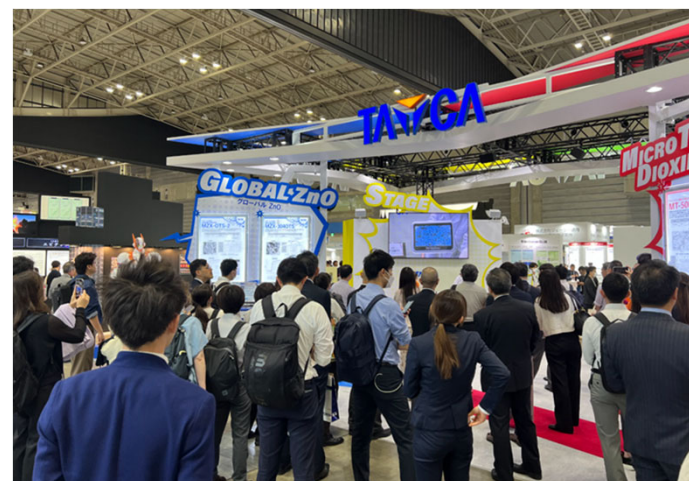
(発表タイトル)

処方技術と原料設計技術を駆使した高い紫外線防
御能を有する水中油(O/W)型のミネラルサンスク
リーン(日焼け止め)の設計



研究開発成果2

国内最大の化粧品原料の展示会である、化粧品産業技
術展「CITE JAPAN 2025」に出展。口頭発表および
多数の開発品を展示(2025.5.14~5.16)。



展示会での当社ブースの様子

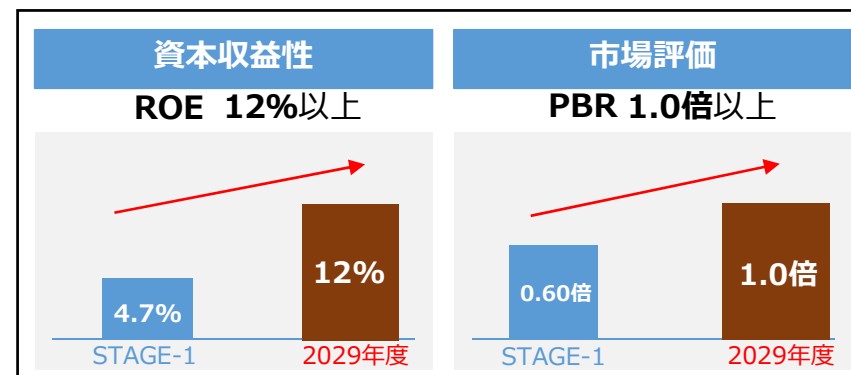
基本戦略

ROEの向上：資本効率経営

- ✓ 株主資本コストを上回るROEの向上
- ✓ 全社KPI運営とキャピタルアロケーション導入

PBRの向上：IR活動の強化

- ✓ 株主還元充実と株主・投資家との対話活性化
- ✓ 広報・発信活動の強化



経営目標

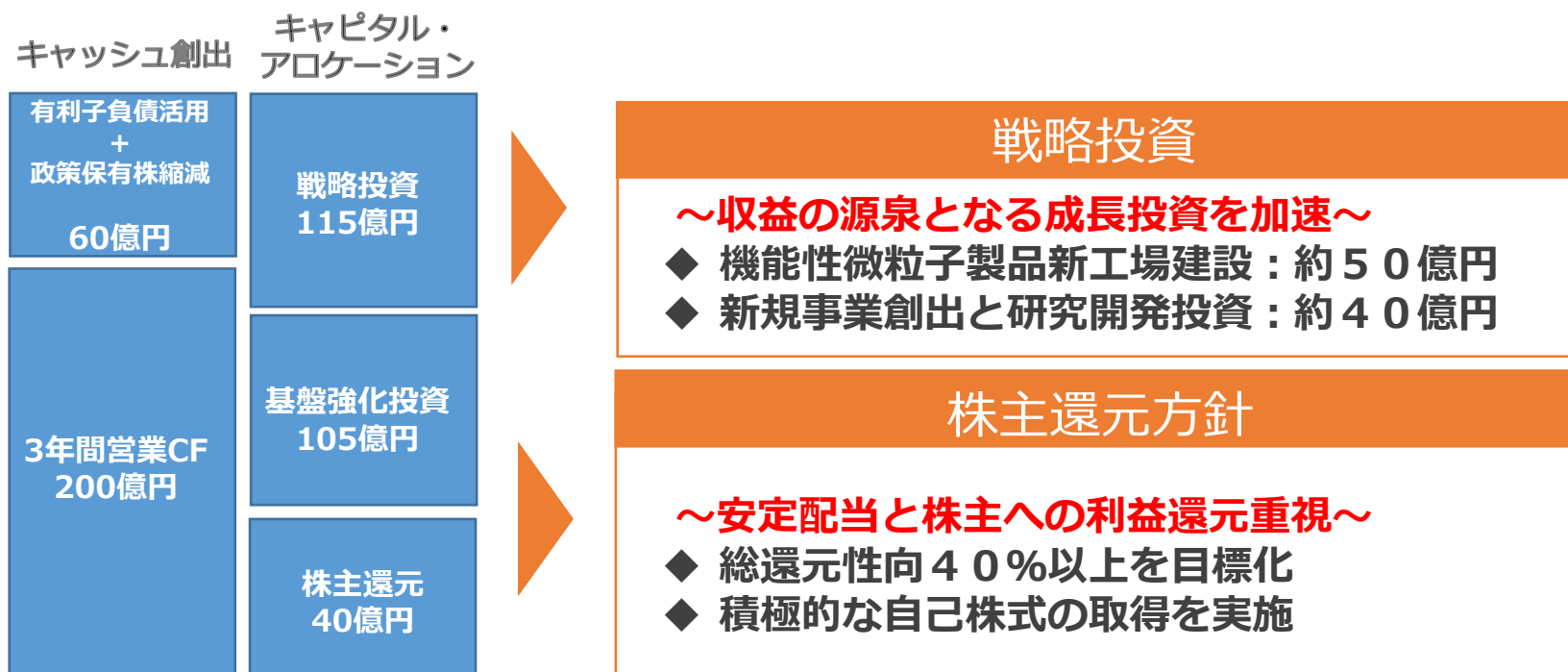
「持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて」

	経営指標	STAGE1平均値	STAGE2 (2026年度)	MOVING-10 (2029年度)
資本効率	ROE (自己資本利益率)	4.7%	7%以上	12%以上
	PBR (株価純資産倍率)	0.60倍	1.0倍以上	1.0倍以上
株主還元	総還元性向	40.3%	40%以上	40%以上

財務戦略：資本効率経営に向けた取り組み



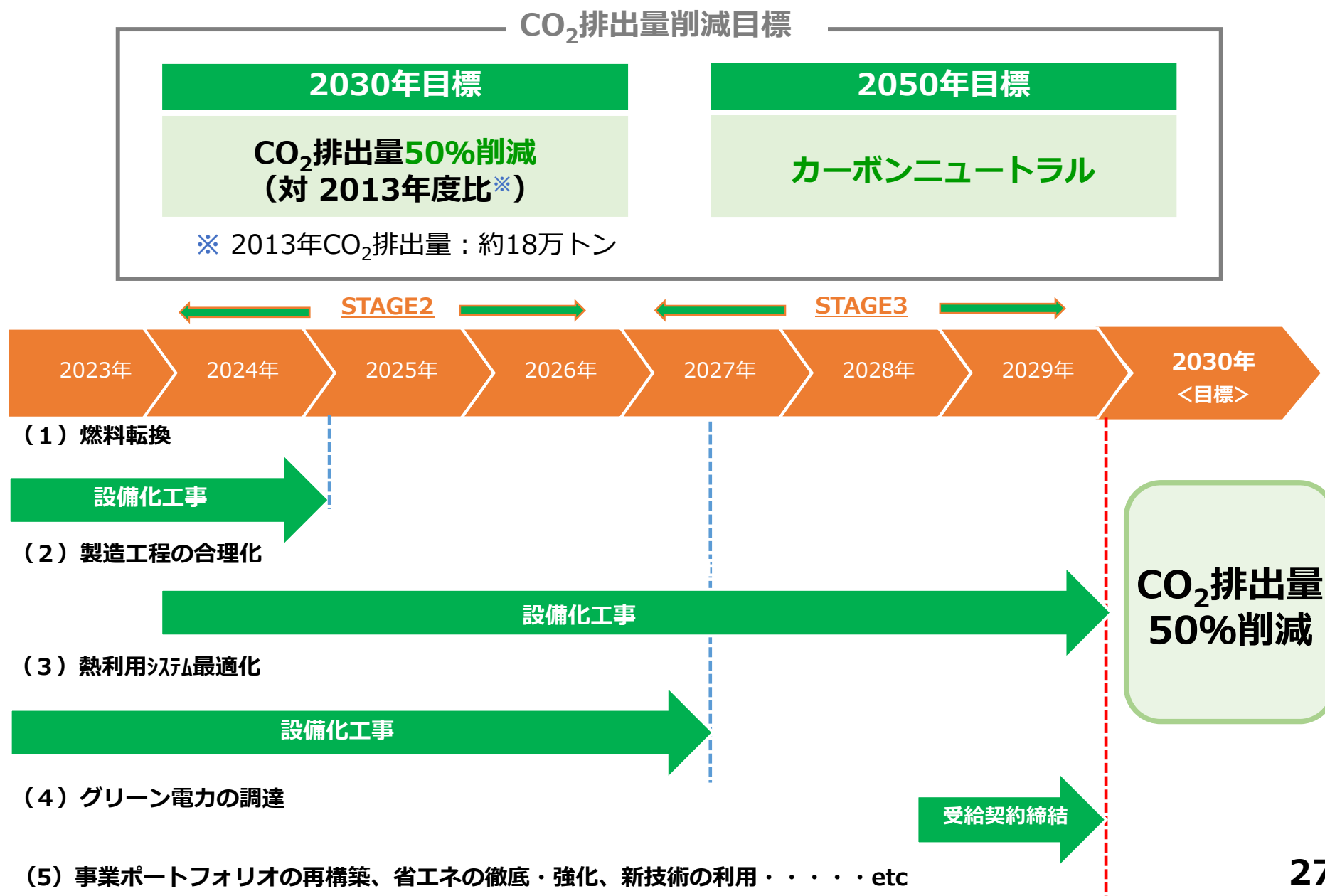
キャピタル・アロケーションの導入【STAGE2期間】



2024年度 実績

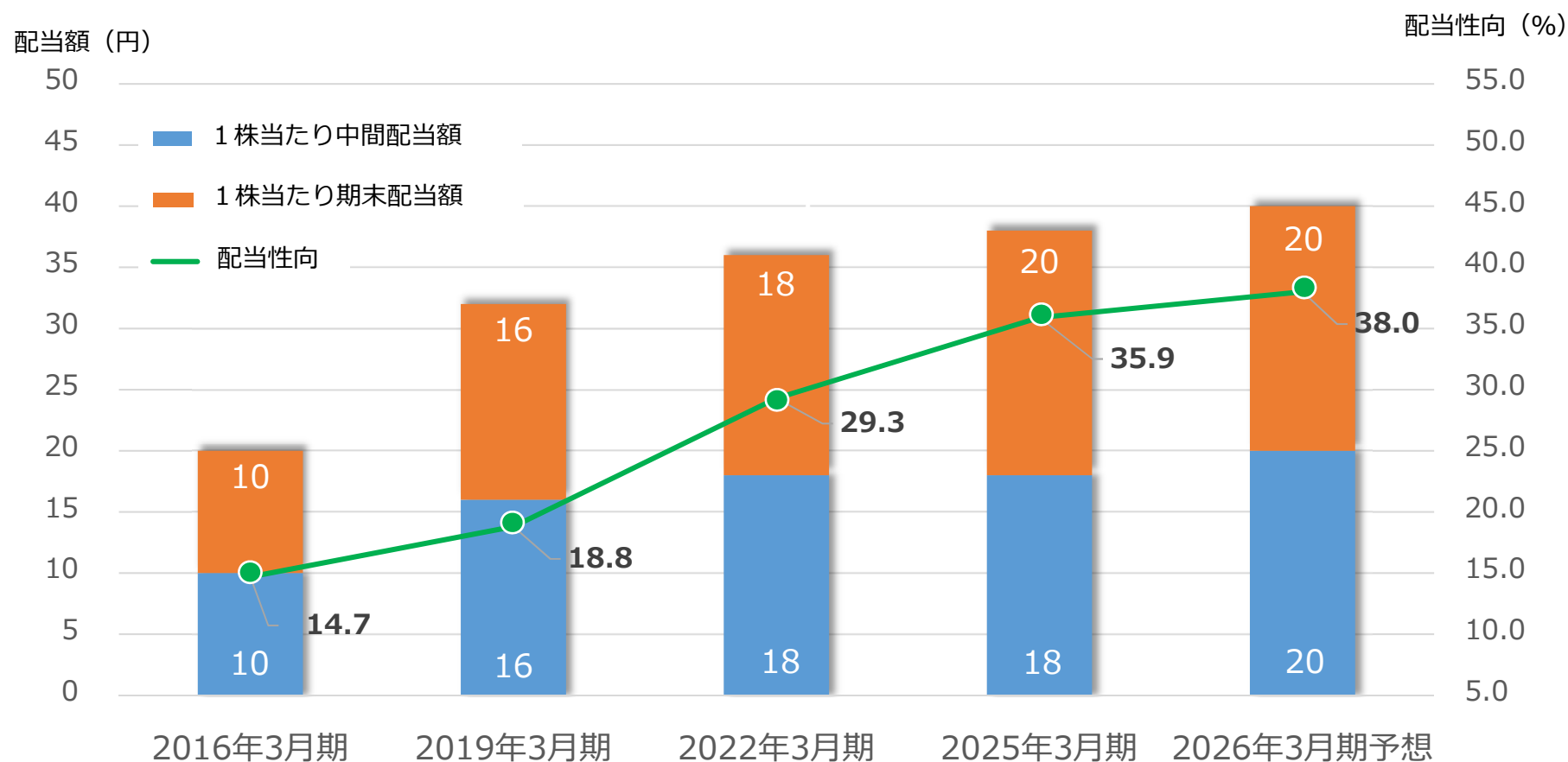
設備投資額：約87億円	総還元性向：48.9%
主な設備投資概要 ①機能性微粒子製品新工場建設：約50億円 ②電子材料・化成品事業の事業用地の取得：約35億円	①配当金：約8億7千万円 (1株あたり年間38円) ②自己株式の取得：約3億1千万円 (2024年3～翌年3月にかけて20万株を取得)

非財務戦略：CO₂削減



5. 株主還元

株主還元（配当金）



株 価	1, 3 3 6 円	(2 0 2 5 年 6 月 1 1 日 終 値)
配当利回り	2. 9 9 %	* 2026 年度 配当予想
P E R	1 2. 7 0 倍	* 2026 年度 業績予想
P B R	0. 5 2 倍	* 2025 年度 実績

株主・投資家との対話活性化



【PBR向上に向けた取り組み】～ティカブランドの確立～

株主・投資家との対話活性化

- ◆ 個人投資家向け会社説明会実施
- ◆ 機関投資家向け決算説明会実施
- ◆ 継続的な機関投資家との面談実施

広報・発信活動の強化

- ◆ 新規開発品情報開示拡充
- ◆ メディアやホームページを通じた積極的なIR活動

経営基盤の構築と成長投資・株主還元のバランスをとり、収益力の強化を図るとともに、積極的なIR活動を通じてステークホルダーとの共創とティカブランドの確立を目指す。

PBR 1.0倍以上の実現

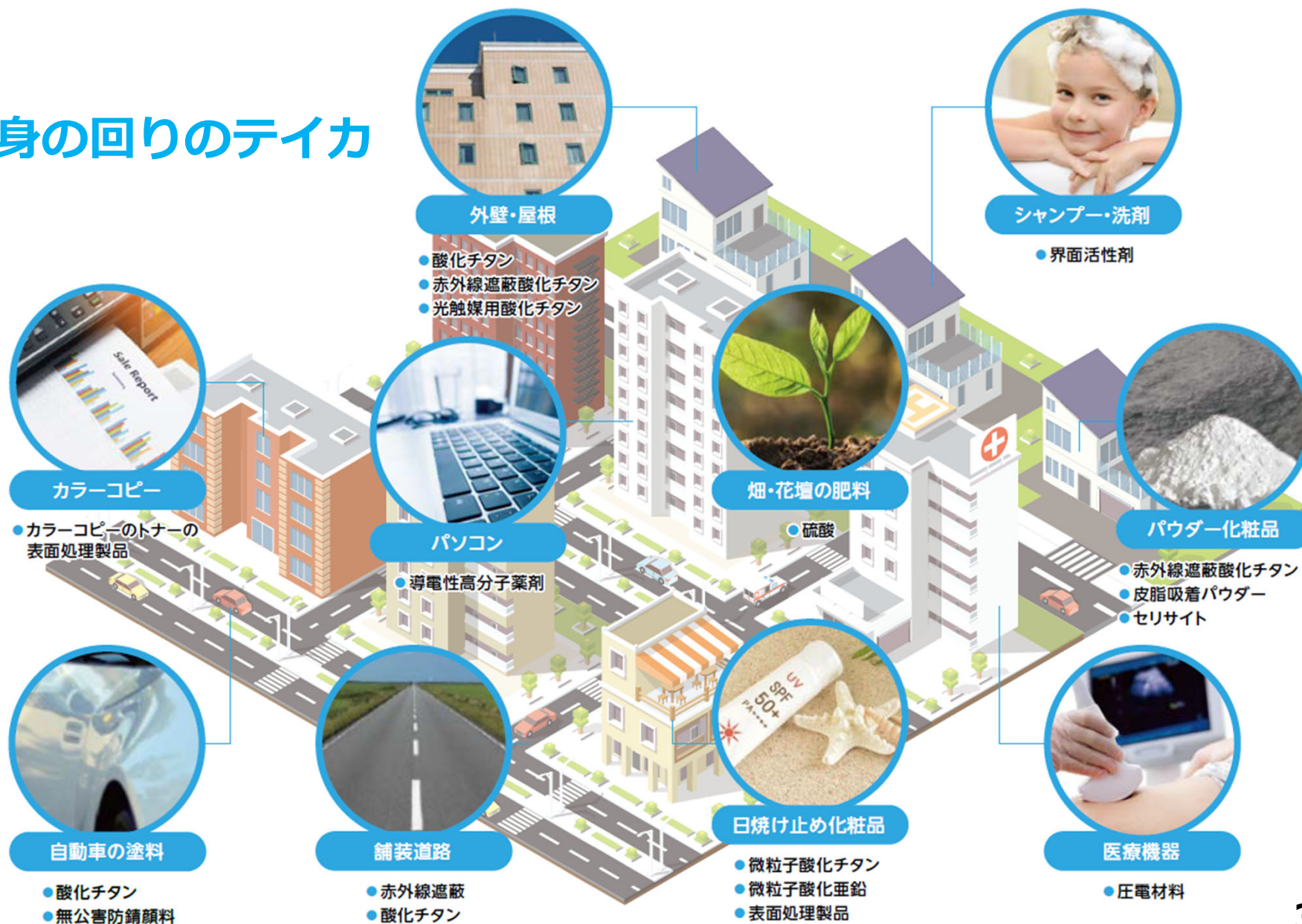
2024年度実績および2025年度実績/計画

	株主・投資家との対話	広報・発信活動
2024年度実績	・ 個人投資家向け説明会：年2回実施 ・ 機関投資家向け説明会：年2回実施 ・ 投資家との個別面談：年25回以上実施	・ 新規開発品等の新聞発表 3 件 ①導電性高分子薬剤 設備増強 ②国際学会IFSCC 2年連続ベスト10受賞 ③新規化粧品原料の開発(酸化チタン内包シリカ)
2025年度実績/計画	・ 個人投資家向け説明会：年2回実施予定 ・ 機関投資家向け説明会：年2回実施予定(1回目6月、2回目12月) ・ 投資家との個別面談：随時実施(6.11時点 7回)	・ 新聞発表(6.11時点 1 件) - 高屈折率チタニアゾルの新用途での採用が決定 ・ 化粧品産業技術展CITE JAPAN 2025 出展 ・ JR岡山駅にデジタルサイネージ広告掲出

6. 付属資料

- 社名 テイカ株式会社 TAYCA CORPORATION
- 創立年月日 1 9 1 9 年（大正 8 年） 1 2 月 2 2 日
- 資本金 9 8 億円
- 年商 5 5 7 億円（連結 2025年3月期）
- 従業員数 8 3 8 名 （連結 2025年3月31日現在）
- 上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：4027）
- 事業内容 各種化学工業薬品の製造、販売
酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、
表面処理製品、圧電材料、導電性高分子薬剤、
界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料 等

身の回りのテイカ



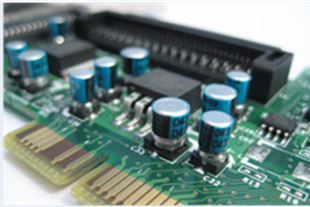
事業紹介（機能性材料事業）



	製品名	用途	概要
機能性材料事業	酸化チタン		酸化チタンは優れた白色顔料として、塗料、インキ、プラスチック、化学繊維、製紙など白いものはもちろん、色のついたもののほとんどに使用されています。 また、白色度、着色力、安全性、化学的安定性など優れた性質をもち、社会のあらゆる分野で役立っています。
	微粒子酸化チタン		微粒子酸化チタンは、一般の白色顔料用酸化チタンに比べてはるかに小さい10～50nmの粒子径を有する超微粒子であるため、例えば、可視光線部における光透過性と紫外部での光遮蔽性が大きい等の特徴ある性質を備えており、しみの原因となる紫外線UVBの遮蔽性に優れています。
	微粒子酸化亜鉛		微粒子酸化亜鉛は、微粒子酸化チタン同様、優れた紫外線遮蔽能力を持つ機能性粉体です。微粒子酸化チタンと比較して、可視部における透明性が高く、しわ、たるみの原因となる紫外線UVAの遮蔽性に優れています。
	表面処理製品		微粒子酸化チタンや微粒子酸化亜鉛等の無機粉体が持つ優れた特徴を最終製品で発揮できるよう、各種有機化合物で表面処理した粉体製品です。表面処理を行うことにより、粉体表面が親水性や親油性に改質され、耐光性や分散性などの特長を付与できます。化粧品原料、プリンターのトナー用外添剤をはじめ幅広い分野で使用されています。
	光触媒用酸化チタン		光触媒用酸化チタンは、紫外線や水・酸素などのクリーンなエネルギーによって発現する酸化チタンの酸化力を利用し、有害な有機物を分解・除去します。これら光触媒効果を活用した、汚れ防止効果を付与した外壁や脱臭効果を付与したインテリア等が実用化されています。

事業紹介（電子材料・化成品事業）



	製品名	用途	概要
電子材料・化成品事業	圧電材料		圧電材料は、電圧を加えることで、伸縮を繰り返し振動する現象を利用し超音波を発生させることができます。エコー検査に使われる医療用超音波診断機はこの機能を利用しています。発生した超音波から画像を映し出すことで、エックス線などは使わず、体の中を安全に調べることができますので妊婦検診や心臓・腹部等の診断で多く使われています。
	導電性高分子薬剤		白川英樹博士のノーベル賞受賞で知名度が広まった導電性高分子。添加物を加える「ドーピング」で、プラスチックのような電気が流れない絶縁体を電気が流れる「導電体」に変えます。当社はいち早くこの性質に着目し、当社固有技術と融合させ、様々な要求特性に対応した導電性高分子薬剤を開発。パソコンの駆動に欠かせないコンデンサに使用されています。
	界面活性剤		界面活性剤は、水と油の両方になじみやすい性質をもち、洗浄、乳化、分散、可溶化などの働きを利用して、洗剤、シャンプーなど生活用品から工業分野にまで広く使用されています。
	無公害防錆顔料		当社は、リン酸塩の研究を長年続けた結果、世界に先駆けてリン酸塩Kシリーズ、無公害型防錆顔料の量産技術を確立し工業化いたしました。地球環境にやさしい技術として、防錆剤、硬化剤、吸着剤など多用途に利用され高い評価を得ています。
	硫酸		硫酸は医薬品、化学肥料といった化学品産業から金属、鉄鋼といった重工業まであらゆる分野での基礎原料となっています。当社では、創立当初より硫酸の製造を開始。この硫酸を基礎原料に酸化チタン、界面活性剤の製造に着手してきました。